

令和7年度 秋期
システム監査技術者試験
午後Ⅱ 問題

試験時間

14:30 ～ 16:30 (2時間)

注意事項

1. 試験開始及び終了は、監督員の時計が基準です。監督員の指示に従ってください。
2. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
3. 答案用紙への受験番号などの記入は、試験開始の合図があってから始めてください。
4. 問題は、次の表に従って解答してください。

問題番号	問1，問2
選択方法	1問選択

5. 答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。
 - (1) B又はHBの黒鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。
 - (2) 受験番号欄に受験番号を、生年月日欄に受験票の生年月日を記入してください。
正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。生年月日欄については、受験票の生年月日を訂正した場合でも、訂正前の生年月日を記入してください。
 - (3) 選択した問題については、次の例に従って、選択欄の問題番号を○印で囲んでください。○印がない場合は、採点されません。2問とも○印で囲んだ場合は、はじめの1問について採点します。

〔問2を選択した場合の例〕

選 択 欄	問1	○問2
	1問選択	

注意事項は問題冊子の裏表紙に続きます。
こちら側から裏返して、必ず読んでください。

“あなたが携わったシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の概要”の
記入方法

あなたの所属部門と，あなたが担当した主なシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の概要について記入してください。

質問項目①，③，④，⑥～⑪は，記入項目の中から該当する番号又は記号を○印で囲み，必要な場合は（ ）内にも必要な事項を記入してください。複数ある場合は，該当するものを全て○印で囲んでください。

質問項目②は，あなたが担当した主なシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の名称を記入してください。

質問項目⑤は，（ ）内に必要な事項を記入してください。

問1 情報システム導入の決定過程におけるリスク評価に関する監査について

組織においては、事業戦略の一環として、未経験の開発手法や新技術を用いた大規模システム、機微情報を海外拠点と共有するシステムなどの新たな情報システムを導入することがある。これらの情報システムでは、現行システムの開発及び運用で既に特定されているリスクだけではなく、当該情報システム導入に伴う新たなリスク（以下、特有のリスクという）が生じる可能性がある。したがって、当該情報システム導入の決定過程においては、特有のリスクを特定して評価するだけではなく、対応策を実施することによって、そのリスクの大きさがリスク許容範囲内まで低減できるかどうかを評価する必要がある。

例えば、国を越えて個人情報を共有するシステムの導入では、他国の個人情報を保有し、活用することで生じるリスクを特有のリスクとして特定する必要がある。また、国内の個人情報保護法に基づいた対応策だけでなく、各国のルールに基づいた対応策が求められる。特有のリスクが顕在化する要因は完全には予測できない可能性があるので、リスク顕在化の防止策だけでなく、顕在化の兆候の発見策も重要となる。これらの対応策によって、特有のリスクの大きさが十分に低減可能と評価できるようになる。

システム監査人は、情報システム導入の決定過程において、特有のリスクが適切な評価方法に基づいて評価され、対応策によってそのリスクの大きさがリスク許容範囲内まで低減できると評価されているかどうかを確かめる必要がある。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが関係した情報システムの概要及びその目的、並びに導入に伴う特有のリスクについて、400字以上800字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた特有のリスクを特定した理由、そのリスクの大きさを含めた評価方法、並びにその特有のリスクに対する防止策及び発見策について、700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問イを踏まえて、特有のリスクが適切に評価され、対応策によってそのリスクの大きさがリスク許容範囲内まで低減できることが適切に評価されているかどうかを確かめるための監査手続について、700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。

〔 メ モ 用 紙 〕

問2 災害を想定した情報システムの業務継続計画の監査について

企業などの組織では、大規模自然災害などの発生時に重要な事業が継続できなくなる事態に備えて、事業継続計画を策定することが求められている。一方、事業における情報システムの重要性が高まることに伴い、事業継続計画と整合した情報システムの業務継続計画（以下、IT-BCP という）の重要性はますます高まってきている。

IT-BCP には、重要な事業を支える情報システムの目標復旧時間、目標復旧レベル、及び目標復旧時点、並びにそれらの目標を確保するための体制、対策などが示されている必要がある。また、大規模自然災害などの発生時に想定外の事態となった場合においても、可能な限り柔軟に対応できる IT-BCP を策定することが求められている。

このような IT-BCP を策定するためには、災害の発生原因からだけではなく、災害が発生した場合の結果の事象（以下、結果事象という）からリスクを把握して分析し、評価することも有効である。例えば、震災と火災という発生原因が異なる災害であっても、“データセンターの機能喪失”という結果事象は同じである。また、IT-BCP の実効性を確保するためには、IT-BCP の訓練を実施することに加え、IT 環境の変化を踏まえて想定する結果事象を見直すとともに、IT-BCP の内容を適時に見直すことが重要になる。

システム監査人は、以上のような状況を踏まえて、IT-BCP が適切に策定され、実効性が確保されているかどうかを確かめる必要がある。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが関係する情報システムの概要、当該システムを利活用する事業の概要及び事業継続が必要な理由、並びに当該システムに係る IT-BCP の概要について、400 字以上 800 字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた IT-BCP について、目標復旧時間、目標復旧レベル、及び目標復旧時点が妥当かどうか、並びにそれらの目標を確保するための体制、対策が整備されているかどうかを確かめるための監査の着眼点について、700 字以上 1,400 字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問ア及び設問イを踏まえて、IT-BCP の実効性が確保されているかどうかを確かめるための監査手続について、想定する結果事象の見直しとの関連を含めて、700 字以上 1,400 字以内で具体的に述べよ。

〔 メ モ 用 紙 〕

6. 解答に当たっては、次の指示に従ってください。指示に従わない場合は、評価を下げる場合があります。

(1) 問題文の趣旨に沿って解答してください。

(2) 解答欄は、“あなたが携わったシステム監査、システム利用又はシステム開発・運用業務の概要”と“本文”に分かれています。“あなたが携わったシステム監査、システム利用又はシステム開発・運用業務の概要”は、3ページの記入方法に従って、全項目について記入してください。項目に答えていない場合、又は、項目間に矛盾があるなど適切に答えていない場合は減点されます。

(3) “本文”は、設問ごとに次の解答字数に従って、それぞれ指定された解答欄に記述してください。

- ・設問ア：400字以上 800字以内
- ・設問イ：700字以上 1,400字以内
- ・設問ウ：700字以上 1,400字以内

(4) 解答は、丁寧な字ではっきりと書いてください。

7. 退室可能時間中に退室する場合は、手を挙げて監督員に合図し、答案用紙が回収されてから静かに退室してください。

退室可能時間	15:10 ～ 16:20
--------	---------------

8. 問題に関する質問にはお答えできません。文意どおり解釈してください。
9. 問題冊子の余白などは、適宜利用して構いません。ただし、問題冊子を切り離して利用することはできません。
10. 試験時間中、机の上に置けるものは、次のものに限ります。
- なお、会場での貸出しは行っていません。
- 受験票、黒鉛筆及びシャープペンシル（B 又は HB）、鉛筆削り、消しゴム、定規、時計（時計型ウェアラブル端末は除く。アラームなど時計以外の機能は使用不可）、ハンカチ、ポケットティッシュ、目薬
- これら以外は机の上に置けません。使用もできません。
11. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。
12. 答案用紙は、いかなる場合でも提出してください。回収時に提出しない場合は、採点されません。
13. 試験時間中にトイレへ行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手を挙げて監督員に合図してください。

試験問題に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社又は各組織の商標又は登録商標です。なお、試験問題では、TM 及び [®] を明記していません。

©2025 独立行政法人情報処理推進機構